

爆走坂東組日記

2006



おう、とうとう夏も終わっちゃったな。ウチのチャンピオン獲得の可能性も、鈴鹿の花火とともに消えてなくなっちゃったよ。今回はそんなしょっぱい話を聞いてくれや。

まずセパンで表彰台に乗った後、オレたちが迎えたのは、7月に行なわれたSUGOでの第5戦だった。もともとSUGOでは事前テストでもウエイト積んで走ってたんだよね。もちろんできるならその状態でも上位に行きたいと思ってた。でも、今年はそれ以上に大事なレースが、その後控えてんだよね。鈴鹿1000kmがシリーズ戦に組み込まれたからな。このレースは通常よりポイントが多い。ってことは、誰だつてここで大量得点を稼ごうって考える。ウチも鈴鹿でどの位置に行けるかについていうのは、重要なポイントだった。その分、SUGOではどの順位で終わるかかってことを考えてたんだ。で、実際に走らせてみたら、予選では天候の影響もあってスーパーラップに出られなかった。じゃあ、レー

スでもベースをある程度落とすって、シングルポジションに入ればなっというふう狙いを絞ったわけだ。この時、予選決勝前半に選んだタイヤはミディアムハード。このところずつと選んでいるモノよりは、柔らかめだった。でも、いざスタートしてみると、コンスタントタイムが伸びず混戦のなかに紛れてなかなか上がって行けなかったんだ。しかも、この混戦のなかでトイストリーレーシングMR-Sにまんまとハメられた。MR-Sは、自分に迫っていた雨宮アスバドラリンクRX7をバックストレートで先行させ、馬の背の入り口でその後ろを走っていたウチの松田を前に行かせた。

この時、RX7とウチの差は1車身から2車身つってとこだったんだ。SPのひとつめに入っていく時に、前のRX7が若干オーバースピード気味で、カウンタを当てながら立ち上がるうとしたんだ。でも右前後輪がダートに落ちた。前日が雨だったからダートはグチャグチャ。RX

Vol.4

大量得点を狙って鈴鹿1000kmに的を絞るが……

7はそこでバウンドしながら走ってたんだけど、SPふたつめに入るところでコースに戻ってきちゃった。そこでウチのクルマとぶつかったわけだ。それでウチはちよつと遅れちまったんだが、MR-Sは「マじつつあん」

つて前に行っちゃった。まあ幸い接触後も走ることはできたんだが、後半同じタイヤをつけてシゲを送り出したら、今度はオーバーステアでまったくベースが上がらなかった。しかも、また同じSPで横をすり抜けようとしたGT500の右後輪とウチの左後輪がぶつかって、今度はウチがそこで動けなくなっちゃったんだ。まったくツキもなかったし、もったいないレースだったよ。

結果、1000kmではワンランク救済を受けたんで、絶対上位に行かなければという思いがあった。作戦としても、富士の倍の距離っていうことで、また燃費を絞って絞って、3回ピットの4ステイメントで行こう

と思ってたんだ。ただ予選で走らせてみたら、思った以上にタイムが出た。だからスーパーラップでもPPを狙いに行ったんだ。ところがプロムセリカっていうとんでもない伏兵がいて、ウチは2番手になっちゃったんだ。でも、レースでは十分



手負いのマシンで決勝ファステストの3点を獲り、予選2位の3点と合わせて6ポイントを重ねた。

勝ちが見えてたよ。長丁場だから、まずはコース上に残ることが大事だと思つた。そしたら、まだ序盤の段階で、またGT500のマシンと接触するというアクシデントに見舞われたんだ。ヘアピン手前の110Rで後ろからきた2台に譲ったんだけど、2台目のマシンの右リヤがウチの左フロントにヒットしてスピン。ステアリングラックまで壊れちゃった。これで万事休す。

クルマを直して、最後まで走りはしたけど、タイトル争いはもう無理だろう。だから、この先は優勝を目指す。多分最後の富士がチャンスだろうから、そこまでのレースで色々と算段を考えなきゃ。まあ今後はその辺を楽しみにしてくれや。

GT300 Race Result ROUND 5

順位	総合順位	No.	ドライバー	マシン	タイヤ	周回数	ベストタイム	予選/タイム
1	14	46	佐々木孝太/番場 琢	吉兆山DIREZZA Z	DL	75	1'24'695	5'1'30'445
2	15	13	影山正美/藤井誠暢	エンドレスアドバンCCI Z	YH	75	1'25'388	11'1'34'572
18	31	19	松田晃司/脇阪薫一	ウェッズスポーツセリカ	YH	53	1'26'324	12'1'34'693

・ベストラップ: No.11 JIM CENTER FERRARI DUNLOP 青木孝行 1'24'124 63/69 158.52km/h

GT300 Race Result ROUND 6

Rd.6 8月20日 晴れ/ドライ 鈴鹿サーキット(5.807km) 出走39台・完走30台									
順位	総合順位	No.	ドライバー	マシン	タイヤ	周回数	ベストタイム	予選	タイム
1	11	52	竹内浩典/嵯峨宏紀/澤 重太	プロム太陽石油KUMHOセリカ KH	160	2'09'629	1'20'7126		
2	12	27	密山祥吾/谷口信輝	direxiv ADVAN 320R	YH	159	2'10'609	10	
19	30	19	松田晃司/脇阪薫一	ウェッズスポーツセリカ	YH	115	2'08'824	2'27'720	

・ベストラップ:No.19 ウェッズスポーツセリカ 脇阪薫一 2'08'824 59.115 162.27km/h

・ベストラップ: No.19 ウェッズスポーツセリカ 脇阪薫一 2'08'824 59/115 162.27km/h

GT300 Race Report ROUND 5 & 6

アクシデントに巻き込まれる不運に見舞われたシリーズ中盤戦

第6戦鈴鹿1000kmをターゲットに、SUGO戦ではウエイトを積まない順位でのゴールを目指したウェッズスポーツレーシングチームwithバンドウ。濃霧による視界不良のため幾度となく赤旗が提示されるなど、悪条件のなかで行なわれた予選では、タイミングを逸し12番手に沈む。決勝では、スタートを担当した松田晃司が序盤で8番手にまでポジションを回復したが、他車のスピンの巻き込まれる形でフロント部分を破損。修復後、レースに復帰するが再びGT500マシンと接触し、左フロント部分を大破、走行不可能となり万事休す。

必勝体制で挑んだ鈴鹿1000km。1回目の予選で4番手につけたウェッズスポーツは、スーパーラップで2番手に浮上。順調なすべり出しを見せた。13時にスタートした決勝では、松田が2番手をキープ。しかし12周目、GT500マシンに接触される形でスピン。急遽ピットに向かいタイヤを交換するが、ステアリングラックにまでダメージを負っており戦線離脱。しかしスタッフの懸命な作業によって、50周すぎにコースへと復帰する。その後、脇阪薫一がファステストラップの3ポイントを獲得するとともに、完走を果たした。